

# 3rd ACDDE (Asian Conference on Design and Digital Engineering)

東京大学先端科学技術研究センター

教授 鈴木宏正

(平成24年度国際会議等開催準備助成AF-2012030)

キーワード：CAD/CAM システム、エンジニアリングシミュレーション、設計最適化、PLM システム

## 1. 開催日時

2012年12月6日～8日の3日間。

## 2. 開催場所

ヒルトンニセコビレッジ (〒048-1592 北海道虻田郡ニセコ町東山温泉)。

## 3. 国際会議報告

本会議は、韓国・中国と日本の3カ国持ち回りで開催される国際会議で、日本機械学会設計工学・システム部門が主催で開催された。会議は、次の7つのワークショップによって構成された。

■Geometric Computing and CAD Workshop

■VR and Multimedia Workshop

■PLM Workshop

■Computational Design Methodology Workshop

■Emerging Applications of CAD Workshop

■Design Optimization Workshop:

論文はフルペーパーと口頭発表の2種目で応募し、それぞれを査読して採択を決めた。フルペーパーは申し込み数101に対して採択数は75、口頭発表は申し込み数40に対して採択数は30であった。採択された論文については、貴財団の費用によりそのアブストラクトをまとめて印刷した。また、フルペーパーはUSBメモリーに収容して配布した。

会議参加者数は、日本80名、韓国63名、中国17名、その他5名で、合計166名であった。最近の中国、韓国との関係悪化の中、特に中国の関係者から努力を得ることができ、最低数の参加者を得ることができた。

これらの採択論文の発表を中心としてプログラムを構

成し会議を実施した。会議のプログラム概要を以下に示す。

■12月6日(1日目) キーノート3件、一般講演(3パラレル)、バンケット

■12月7日(2日目) 一般講演(4パラレル)

■12月8日(3日目) テクニカルツアー(2コース)

発表内容としては、CAD/CAM等のシステムの基盤を支える幾何処理について、新しい微分幾何学的理論や、処理の高機能化や高速化などについての発表が目立った。また、新しいCADの分野として医療応用のアプリケーションの発表もいくつか見られたのが印象的であった。一方デジタルカメラやレンジファインダーなどの画像処理技術を設計システムのユーザーインターフェースに応用するものや、モバイル端末でのCADアプリケーションなどについても論文発表があった。

また、本会議ではアカデミアからの先端研究の発表に加えて、企業からの事例紹介などの口頭発表を歓迎しており、新しいX線CT装置の開発事例や、自動車全体のCADデータを表示するためのデータ軽減手法などについて報告があった。

会期中悪天候が続き、また会場が周辺から孤立しているために、二日間通してセッションは参加者が多く、質疑応答も活発であった。また、発表された論文から優れたものを選び、国際ジャーナル誌4誌に特集号を出版する予定である。なお、今回は韓国ソウルにて2013年8月に開催される予定である。

## 4. 謝辞

本会議は、公益財団法人天田財団2012年度国際会議等開催準備助成AF-2012030を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。